

会員のみなさんこんにちは 都市生活コミュニティセンターです。

「都市生活コミュニティセンターNews」創刊号をお届けします。
このNewsでは、その時々のできごとや、会員・役職員からのメッセージなど「都市生活コミュニティセンターNews」e-mail版の内容を月1回まとめて紙面でお伝えしていきますのでよろしくお願ひします。

☆ e-mailでの配信をご希望の方は、メーリングリストに登録いたしますので toshiseikatu-cc@hcc1.bai.ne.jpまでメーリングリストに登録希望と明記し、送信して下さい。その場合、次号からのFAX送信は致しません。

＜連載：理事からのメッセージ＞

●早瀬さん講演会に参加して=9月26日に行われた都市生活コミュニティセンター法人認証記念パーティーの基調講演

◆理事 角田 学 (すみだまなぶ/生協都市生活)

早瀬さん講演会の感想

日頃から生協組織の中にいると、組合員の想いを組織の意思や活動により合わせていくことに苦労します。私たちの運営では、最初の発信者の想いが形になるまでに時間も労力もかかります。「いますぐ、何とかしたい」という原点にある個人の想いを大事に考えるならば、生協という組織は使いにくいものかもしれません。一方で、NPO

の理事として、「その点NPOは？」という問題意識に応えてくれるお話であったように思います。早瀬さんの現場の実践に裏打ちされた、楽しい講演の中に、NPO組織の特長がきちんと整理されていました。生協の中でも思い当たる話がいくつもありません。生協という組織のもつ良さ・力とNPO都市生活コミュニティセンターのもつ良さ・力をうまく重なり合わせていくことができればと思います。

◆理事 松井一郎 (まついいちろう/関西生協連)

市民活動の時代と都市生活コミュニティセンターの役割

大阪ボラ協・早瀬さんの講演は、そのレジュメの標題「市民が動く、社会が変わる」のとおり、社会変革の主体としての市民活動の登場をアピールするものでした。(市民活動の弱点も充分踏まえた上で)興味深い話であった。「パイオニア」はいつも少数派「イノベーターは3%」は少数派であることを恐れるな、というメッセージでし

よう。
ここに同時に語られた「働き蟻の中で実際に働いているのは一部」「働いていない蟻ばかりを集めると、(全部が働かないのではなく)一部の蟻が以前の群と同じ割合で働き始める」という話を重ね合わせると、都市生活コミュニティセンターの役割が見えてくるように思いました。(早瀬さんの講演趣旨の範囲からは少しはみ出るかも分かりませんが)すなわちこの蟻の寓意から3%のイノベーターは

【センターの近況】
○ゆう~あいキッチン(データ)
9月の総配食数...320食
月曜50食、火曜30食が定着してきました。
○あ・し・す・と
介護保険事業(訪問介護=ヘルパー)の開始に向けて詰めの作業に入っています。
○IT講習会
西宮市から委託されているIT講習会が11月から再開されます。事業終了は12月の予定です。(IT講習会は西宮市内の5つのNPO団体が共同で実施しています。都市生活コミュニティセンターは全体の事務局を引き受けています)

選ばれた特別の人ではなく、誰でも、条件さえあればなれる(なる)可能性があること、また3%のイノベーターの意思は残り97%の意思と相通じているはずだと言えるのではないのでしょうか?

都市生活コミュニティセンターの役割は誰でもその意思さえあれば市民活動に参加できる仕組みを提供すること、また14%のアーリー・アダプターに対しても乗りやすい仕組みを提示することだと考えます。

※新着情報については都市生活コミュニティセンターのホームページも参考にして下さい。
<http://www.bekkoame.ne.jp/~pancer/information.html>